

横山 剛史さん

【中小企業診断士を目指した理由】

農家向けに生産資材を生産・販売する会社に所属しています。3年前からコンサルティングチームを立ち上げ、その事務局的な立場になりました。農業分野に商工分野のコンサルティング手法を持ち込みたいと思い、御墨付資格が欲しくなりました。

【2次試験受験履歴】

H28	一次合格	2次不合格	CCAC/B	独学
H29	一次未受験	2次合格		MMC通学

【MMCを選んだ理由】

最初はお金を掛けず、独学で合格しようと思ったのですが、1回目の2次不合格時にこれ以上時間を掛けては機会を逸すと危機感を抱き、「最大限の時間と資金を投資する」と方針転換を決意しました。有志の勉強会に参加して情報収集をしていたので、MMCの高い評判を先輩から聴いており、迷わず申し込みしました。

【MMCにおける勉強のツボだと思うこと】

入学前の準備として、2次試験終了時からすぐ①全経簿記1級受験(11月)、②出題委員先生の著書を読む、③日経春秋の要約を始めました。(合否には直接関係無かったような気がします。しかし、何かせずにはいられなかった。)

1月開講から4回ある模試をベンチマークとしました。特に1回目模試の5月までに、MCサークルと金型の習得を目標としていましたが、そこはカリキュラム通りに受講していれば、特に苦労は無かったような気がします。

具体的には、STEP毎の再解答には80分に拘らず、マイベスト解答を作成すること(そう指導されますが)によって、インプットとアウトプットの繰り返しにより、身に着いたのではないかと思います。7月から講習と並行して、5年分本試験×5回転、MMC模範解答との差を確認することに努めて仕上げとしました。

毎回のテスト毎に成績順位が発表されますが、5月以降はバラつきながらも、概ね上位30%~40%に入るようになっていました。しかし、振り返れば順位が大事なのではなく、「どのくらいの手応えなら、どのくらいの順位か」という感覚が大事だと思います。相対試験の特性を踏まえて、無難な解答を書くよう徹底的に指導を頂いたことで、本番で初見問題に悩みながらも「このくらいで良いんじゃない?エイっ!」と書けました。

【事例Ⅳについて】

GW財務特訓のテキストを8月までに3回解き、答練をこなしながら、H13~H28の本試験問題を本番までに5回転しました。直前答練では思うように点数が伸びず、過去問は何回やってもミスがあったので、9月からミスしたことを全て「失敗の科学」と名づけたメモに記録をしていきました。そして課題は、①曖昧で複雑な条件の整理、②ポカミス対策、の2点に集約されました。

①については、MMCで推奨されている「P/L→CFの一貫表」のように情報を整理することが命だと本番直前にやっと理解して、一貫表の早書きを練習しました。結果、本試験では取替投資でかなりの得点を稼ぐことが出来ました。

②については、間違え易いポイントを論点別にA4一枚の「チェックリスト」にまとめ、過去問を解く前にチェック、終わってから手直し、を重ね本番では、トイレの行列に並びながら「最終版チェックリスト」を確認して臨みました。それでもミスしましたが、致命傷は回避できたようです。

【終わりに】

「本試験が簡単だったことは一度もない、今年も難しいと思って掛からなくてはダメ」と直前講習で中居先生が仰っていましたが、本当にそうでした。会場からの帰りにはポカミスにいくつか気がつき、ガックリしていました。その後、誰に聞いても「今年は難しい」と口にしており、自分がなぜ合格したか今は分かりません。

プレッシャーの掛かる本番、それもたったの80分、その場で考えて書けるものではないです。本番でなんとか手が動いたのは、講師の皆様から直接頂いた指導の言葉や赤ペンのアドバイスのお蔭です。(特に久保先生の「ワンフレーズ助言」が頭に残りました。)受講生の皆様、プロの力を信じて頑張ってください。

以 上